

10月のテーマ図書

■中越地震から20年

2004年10月23日に発生した中越地震から20年が経ちます。情報館でもスプリンクラーが破損し、水に濡れた約7,000点の本やビデオテープが廃棄処分となりました。

20年の節目にあたり、震災当時の記憶を風化させず、今後の防災に向けて経験や知識を生かすため、関係資料を展示しています。あわせて情報館の被災状況、当時の新聞などご覧いただけます。場所は2階インターネットコーナー隣です。

AV資料コーナーの被害状況



■児童向け

秋いっぱい！

『ぱっとんころころどんぐり』、『おちばシャックシャック』など、秋を感じる本を紹介します。

アート&スポーツ

『パンクシー』、『世界のスポーツ競技図鑑』など、芸術やスポーツに関する本を紹介します。



■一般向け

○○の秋

『読書と日本人』、『木の実の呼び名事典』など、秋の醍醐味を満喫できる本を紹介します。

からだいきいき

『温泉はなぜ体にいいのか』、『人生100年いきいき動ける大人のストレッチ』など、笑顔でいきいきと暮らすための本を紹介します。

第93回名作読書講座

『桜の園』 チェーホフ／著（新潮文庫）

ロシアの劇作家、小説家のアントン・チェーホフ[1860~1904]による最晩年の作品。『ワーニャ伯父さん』、『かもめ』、『三人姉妹』と並ぶ四大戯曲のひとつです。1904年1月17日、モスクワ芸術座において初演されました。

「桜の園」と呼ばれるロシアの荘園を舞台に、急変する現実を理解せず、華やかな昔の夢におぼれたがゆえ、先祖代々の土地を手放さざるを得なくなった貴族階級の哀愁を描きます。



日程／10月17日(木)

午後7時30分～8時45分

会場／第1集会室 対象／中学生以上

定員／25人(申込み不要)

新着地域資料

『歌集 二人で持てば』

小島文／著、NHK学園 2024.7

市内在住の小島文（あや）さんが第2歌集『二人で持てば』を刊行しました。

高校の家庭科教員として教壇に立っていた小島さんは、57歳で退職。その7年後、心を落ちさせたいと短歌を始めました。77歳で歌集『冬の花火』を出版。結婚60周年を迎え、来し方、行く末を見つめる良い機会と出版した今回の歌集には70代後半から80代半ばに詠んだ約400首を収録。小島さんは、「私の子や孫達に私の生きた証の一つとして残したい」、「古くからの友人、知人、新聞で私の歌を見つけて励ましてくれる方々のお手元に感謝を込めてお届けしたい」と綴っています。



NEW

『あしあと～地域社会発 居場所行き～』

フォルトネットに関わった皆様／著、ねころんだ出版 2024.7

不登校やひきこもりの人たちの文集『あしあと～地域社会発 居場所行き～』が、オープンスペース「ねころんだ」から出版されました。利用者や家族らの声や作品のほか、昨年11月の「車イス・トークセッション」も抜粋して掲載。

ひきこもり支援団体・フォルトネットの関口美智江代表は、「自分たちは居場所があったからこそ今の自分がある。だから今、悩んでいる人に伝えたい、あなたの周りにも手を差し伸べてくれる人はいます。勇気を出してその手をつかんでほしい」と話しています。



NEW

スタッフによる日々の声をお伝えします

ねえ、きいて その49

8月4日に「ティーンズ読書会～わたしの推し本紹介します」を開催しました。

「推し活」という言葉が一般化しつつある昨今、自分の「好き」を誰かと共有したい子供たちが増えています。SNSなどの手軽さや拡散力はありませんが、このイベントを通じて同じ地域内・学校内にも自分の「好き」に共感してくれる人がいることに気づくことができ、交流のきっかけになれば嬉しく思います。去年も参加してくれた学生さんととても趣味が合い、イベント後も話が尽きないほど仲良くなれました。「来年もまた参加したい」と言ってくれて、来年はさらに良いイベントにしよう！という活力になりました。紹介された「推し本」のテーマは1階ティーンズコーナーにて開催しています。（小幡）



本のちから(7)

~紫式部~

長かった夏も終わり、すっかり秋めいた風を感じるようになりました。秋の虫たちが奏でる声を聞きながら、夏の疲れを癒している方も多いのではないでしょうか。

気づくと庭には白萩が咲き乱れ、紫式部も品よく美しい実をつけていました。この紫の実をつける木を、「紫式部」と名付けた昔の人たちは、なんと心が豊かなのだろうと思います。

その紫式部が主人公のNHK大河ドラマ「光る君へ」が放送中です。一条天皇のもとに入内させた娘、彰子の存在感を大きくしたい藤原道長は、紫式部に物語を書かせます。紫式部が書いた『源氏物語』は、

子ども読書活動推進コーディネーター

林 篠子



道長の思惑通り、一条天皇の心をひきつけ、彰子の寵愛につながります。彰子は天皇との間に2人の皇子をもうけました。ひとつの物語が政治、歴史をも動かした、まさに本の力ですね。



わが家の紫式部が咲きました

10月20日(日)は家読(うちどく)の日

「家読(うちどく)」は「家庭読書」の略で、「家族ふれあい読書」の意味です。毎月第3日曜日は家族で読書を楽しみましょう。

『想い出の昭和型板ガラス』

吉田 智子／著 吉田 晋吾／著 石坂 晴海／著 小学館 (751才)

かつてはどこの家でも使われていた模様入りの板ガラス。今では国内でほとんど生産されていないそうです。この本はそんなガラスにまつわる想い出24話と、60種類のガラスを写真付きで紹介した1冊です。

古い家屋を解体した時に出るこのガラスは、業界的には廃棄するゴミに分類されます。しかしこれには「よぞら」、「かすり」といったようにひとつずつ名前がつけられています。著者の吉田さん夫婦は「名前があるものを捨てるわけにはいかない」と、このガラスを使った作品を作る活動を始めました。放っておけば想い出の中のものとして失われていくガラスを、誰かの記憶に刻まれる一品として生まれ変わらせるなんて素敵ですね。

みなさんのお家には昭和型板ガラスがありますか？ そこにはどんな想い出があるのでしょうか？ この本を片手に探してみるのも楽しいかなと思います。



スタッフのおすすめ本(関谷)

新着資料紹介 8月21日～9月20日分

【一般図書】

- 『えほん思考』菊池良／著 晶文社(哲学 141キ) ●『自然のふしげを解明！超入門「地理」ペディア』地理おた部／著 ベレ出版(川西 290シ) ●『私の実家が売れません！』高殿円／著 エクスナレッジ(松之山 365タ) ●『認知症介護のリアル』信友直子・恩藏絢子／著 ビジネス社(中里 493.7ノ) ●『ほんご女将のしあわせおにぎり帖』右近由美子／著 イースト・プレス(調理 596ゴ) ●『変わり種切手大図鑑』荒牧裕一／著 切手の博物館(産業 693ア) ●『もう一度、泳ぐ。』池江璃花子／著 文藝春秋(芸スポ 785イ) ●『海風』今野敏／著 集英社(日文 913.6コ) ●『全員犯人、だけど被害者、しかも探偵』下村敦史／著 幻冬舎(日文 913.6シ) ●『雷と走る』千早茜／著 河出書房新社(日文 913.6チ) ●『臨床のスピカ』前川ほまれ／著 U-NEXT(松代 913.6マ) ●『裏庭のまぼろし』石井美保／著 垣紀書房(日文 916イ) ●『アウシュヴィッツの小さな廐番』ヘンリー・オースター／著 新潮社(外文 936オ)

【児童図書】

- 『ネットでいじめられたら、どうすればいいの？』春名風花／著 河出書房新社(ティーンズ 371ハ) ●『絵で見て楽しい！はじめての和の音楽』上野哲生／著 すばる舎(児童一般 768ウ) ●『ルルとララのかみかみグミ』あんびるやすこ／作・絵 岩崎書店(川西児童 913ア) ●『うちのキチント星人』佐藤まどか／作 フレーベル館(児童日文 913サ) ●『恐竜博物館のひみつ』別司芳子／作 文研出版(松之山児童 913ベ) ●『うつくしいってなに？』荒井良二／絵 小学館(絵本 Eア) ●『いないいないぱぴぶぺぽ』海野あした／作・絵 ニコモ(中里赤絵 Eウ) ●『はばたいたフトン』さかもとすみよ／絵 佼成出版社(絵本 Eサ) ●『いえができるよ』バイロン・バートン／絵 好学社(絵本 Eバ) ●『こまったくこまったく』山村浩二／絵 アリス館(絵本 Eヤ) ●『はみがきざむらい』わたなべあや／え マイクロマガジン社(絵本 Eワ)

【地域資料】

- 『あしあと～地域社会発 居場所行き～』フォルトネットに関わった皆様／著 ねころんだ出版(地域 T371ア)

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点

「ホント力。」

9/28(土) OPEN!

「ホント力。」と十日町情報館、図書館の相互利用ができます。



◇利用登録ができる方

● 「ホント力。」

小千谷市にお住まいの方、または通勤・通学している方

長岡市・見附市・出雲崎町にお住まいの方

十日町市にお住まいの方

・十日町情報館

十日町市・津南町にお住まいの方、または通勤・通学している方

小千谷市にお住まいの方

◇利用できるサービス

●図書館資料の貸出 ●予約（所蔵のある資料）

●インターネットサービスなど

・所蔵のない資料のリクエストは、お住まいの地域の図書館で行ってください。
・資料の返却は、借りた施設か、その市域の分館（分室）でお願いします。

◇登録方法

利用登録条件を確認できるもの（運転免許証、マイナンバーカード、社員証、学生証など）をお持ちのうえ、「ホント力。」、十日町情報館の各施設で手続きをお願いします。

※詳しくは各施設のホームページ等でご確認ください。

【令和6年度 情報館主催 パソコン講習】

パワーポイント

プレゼンテーション資料の作成を基礎から学びます

日時／10月11日(金)・15日(火)・18日(金)

※全3回 午後7時～9時

対象／文字入力、マウス操作ができる人

受講料／4,000円

定員／先着15人

会場／コンピュータ研修室

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもOKです。



閉架書庫公開

申込みは当日1階カウンターで
お願いします。

日時／10月20日(日)

午後2時～5時

【今後の公開予定】

12/15、2/23、3/16
(全て日曜日)



映画上映会

『土を喰らう十二カ月』



©2022 『土を喰らう十二カ月』製作委員会

監督・脚本／中江裕司 出演／沢田研二、松たか子ほか

料理／土井善晴(料理研究家)

日時／11月10日(日)

入场料
500円

①午前10時～正午

②午後2時～午後4時 (開場各30分前)

会場／視聴覚ホール 定員／各回先着90人

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもOKです。

☆情報館事務室にて前売り券を販売します
※10月10日(木)販売開始

10月のおはなし会

◆情報館

5日(土)・12日(土)

／おはなしぴよぴよ(乳幼児)

19日(土)／読み聞かせの会 どんぐり

(幼児～小学校低学年)

26日(土)／おはなし「たまてばこ」(乳幼児)



◆川西分室

19日(土)／おはなしの会「ふきのとう」

(乳幼児～小学校3年生くらい)

◆松代分室

12日(土)／おはなしたんぽぽ

(幼児～小学校低学年)



その他の催し

●原発ぶつちやけトーク

日時／10月8日(火) 午後6時30分～8時30分頃

会場／視聴覚ホール 参加費／無料(申込み不要)

●全日本写真連盟 十日町支部会員展

日時／10月4日(金)～7日(月)

※7日は午後4時まで

会場／ギャラリー

入場／無料



十日町情報館 開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 第2・第4月曜日(当分の間)

特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)

十日町情報館

〒948-0072 西本町二丁目1-1

電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103